

「東京新聞」の「平和の俳句」、12月掲載からの句から。今月は、翻訳家でエッセイストの鴻巣友季子氏が選者に加わっている。

「戦争は人為ですから無くせませす 宮川一樹（かずき）（69歳）」<いとうせいこう 作者は理学療法士。だからなのか、言葉に説得力がある。まるで筋肉の疲労を治すかのよう
に、人為は変えられるという。無くそう。> 米国と北朝鮮の間に緊張が高まっている。人が起こすことは、人が止めることができるはずである。この戦争を回避できたら、希望が持てる。世界のために、互いに理性を働かせ、勇気をもって、話し合いによって、平和に向かってほしい。日本は両者の仲介をすることが役目なのではないか。

「核の傘外して見れば青い空 秋葉稔（85歳）」<黒田杏子 「核兵器禁止条約反対」に反対と。同感です。> <いとうせいこう まったくだ。灰色の上空をなんとかせねば死の灰も降る。> <鴻巣友季子 傘越しはもやがかかると。じかに見る空の青に心放たれる。> 核廃絶は日本人の悲願である。「核兵器禁止条約」が122ヶ国の賛同を得て、決議された。ICANがノーベル平和賞を授賞した。世界の良識は核廃絶に向かっている。核の傘を取り退けたら、晴れ晴れとした青空が広がるに違いない。そのために、日本は存在するのではないか。米国追従から、主権国家としての意地と誇りを示すべきである。

「9条の傘と絆に抱かれます 高橋博（84歳）」<黒田杏子 五十年の歴史を刻む「浜松市憲法を守る会」会員として活動してこられた高橋さん。願いは「世界平和のみ！」と。私も全面支持です。> 同じ傘でも「9条の傘」と言う。「9条の傘」の下では平和がある。そこに集う人々の「絆」は固い。日本を代表する、知性ある人々が憲法守れと言ひ、全国各地で護憲運動を展開している。しかし、憲法改定を主張する安倍政権を倒すことができない。この事実は、9条の傘の下での絆は固いが、国民に広く伸びていないのではないか。9条より経済ということであろうが、戦争は経済を破壊することを「知るべし」である。

僧侶で作家の瀬戸内寂聴氏が「平和の俳句」に句を寄せている。「冬すみれ排除の文字は読めませぬ」小池百合子東京都知事は、総選挙の時、「排除いたします」と発言した。寂聴氏は、「排除なんて言葉を使う政治は国民には読めません。伝わりません」と言っている。立場や考えの違う人を敵視し、排除したがる現在の社会、政治状況に対し、戦時中の厳しい統制を受けた経験から警告した句である。

「平和の俳句」の選者として導いてきた金子兜太氏も投句している。「東西南北若々しき平和あれよかし 白寿兜太」<いとうせいこう これは世界平和への尽きない願い、祝福。そして、すべての「平和の俳句」作者、読者へのご挨拶。これにて連載はいったんおひらきです！> 13万1288句もの投句があったそうで、兜太氏によって、どれだけ多くの人々が平和の思いへと駆り立てられたことであろうか。このような市民の思いが積み上げられて平和が作られていくと信じる

「平和の俳句」は2017年で終わり、最後31日の句。「これ最後？ いいえ詠みますこれから 嶋島（しぎしま）峰子（63歳）」<黒田杏子（ももこ） 掲載終結を惜しみつつ、九条が守られるのを見届けるまで詠み続けますと。> <いとうせいこう 他の多くの人たちからも、詠み続けるとの声が。平和の俳句は終わらない。> 文学、芸術が戦争賛歌に動員された時代もあったが、戦争に反対し、平和を求める句を詠める自由な時代であることを喜ぶ。この状況は何としても守りたいものである。